



第1部：基調講演

〔水谷 先生〕

本日、このように大勢の方にお越し頂きまして、お一人お一人に対しまして心から敬意を表するものであります。と、申しますのも、このテーマに従って役所のほうで呼びかけがございました。この呼びかけの趣旨は何かと申しますと、皆様方のご意見をぜひ反映させたい、こういうことだと私は思っています。それに対しまして、国民の一人ひとりとしてご意見があるのは当然でありますけれども、またそれぞれの立場で地域のオピニオンリーダーの方々でもいらっしゃいます。その皆様方がこれだけお越し頂いたということだけで私は関心の深さ、或いは役所の意図がそれだけ通っているということで、もし我々の意向が国勢に影響することができるなら、こんな嬉しいことはないと思うからであります。

国土交通省の行うことの、基盤整備、これは国民一人一人に対して大きな影響がございます。私どもは普段何気なくこの国土に生きているわけでありましてけれども、その過程におきまして、随分大きな恩恵を受けていると思っております。普段それに気が付かないでいます。空気・水みんなただで頂いていると思っているかもしれません。しかし我々がこれだけ豊かに生きていける、その基盤と申しますと、何年にもわたる、先輩のやってきた集積でありまして、その集積としての社会資本がどれくらい有り難いかという事につきましてはさかのぼって考えれば分かることなのであります。しかし、私どもはそれに気が付かない、或いは気が付かないふりをしている事もございます。よくよく考えてみますと、絶えず自然の災害にみまわれて苦労をしてきた先人がいらっしゃいます。そして先人が苦労してその自然を克服してきておるのであります。そのおかげで災害に遭う事もなく今日があります。しかし、日本におきまして自然を克服しきれぬものであろうか、環境をそのまま変えていっていいんだろうか、という跳ね返りもきているのでありまして、その意味で見ますと一時正しいと思ってやってきたことが長年経ってみますと何十年後にはやらなければ良かったということもありまして、その反省もまたしきりに行われているということでもあります。

それらにつきましては誰が考えて誰が推進してきたか。これは国民の一人一人が意見を言っていたわけでありません。おまかせであります。おまかせ頂いた役所のほうが一所懸命将来を考えてやってきたおかげで今日があるとともにもう少し意見が反映されたら、違った点があったのではないかとと思われることがあります。後の祭りであります。とすれば我々の意見を早い段階から、もし申し述べる事が出来れば、それが役立つことだってあり得るのであります。それは人間誰しも万能

ではありません。それぞれの立場の意見をできるだけ吸収したうえで、政策判断をしていただくということは大変な重要なことだと私は思っております。その社会資本の充実という面で申しますならば、いろいろなことが求められております。それは必要なことが沢山あるからであります。安全の問題、これは緊急に必要なものもあるでしょう。いや殆どのものは緊急に必要と思われるかもしれませんが。そして地域にとって重要なこと、住民一人一人にとって重要なこと、これを数え上げればきりがありません。全部やる必要があります。しかしやる資源は有限であります。

今我が国におきましてはこの資源問題ということになりますとお金ということになるのであります。かつては違うのであります。材料がない、技術がない。こういったことが多々ございました。しかし今はかなりの材料が十分に手に入る、やる意思があれば出来るのであります。やればいい、やった方がいい、これが共通するイメージでありましょう。しかし、その為のお金ということになりますと、心細い次第であります。それは所詮我々国民の一人一人の金でありまして、貴重な物であるだけに優先順位を付けなければなりません。その意味では従来もそうなのでありまして、これまでの優先順位をつけてやってきたのであります。ところがこれがなかなか難しい問題であります。もし、資金的に豊富に有れば多少の優先順位が前後してもやがて出来上がるという社会資本に対しましては少し待てばいい、という対処方法があります。しかし、現実の国家財政を見ますと、そんな事態とはほど遠い状況になってきております。資金がないのであります。重点を絞らなければなりません。国家財政がどれくらいになっているかというのはもう関係の皆様方、お分かりになっているかと思えます。その関係者というのは、国民一人一人全部が関係者です。ところが意外なほど関心のないことも事実であります。お国のことは自分とはあまりにもかけ離れているからという考えかもしれません。でも所詮国民の一人一人に跳ね返ってくる問題であります。

現在、国の財政が赤字であるということをご承知だと思います。その赤字がべらぼうにでかいということもご認識いただいているだろうと思うのであります。赤字の部分というのは収入より余分に使っているから赤字になるのであります。その赤字の部分は資金が足りませんので借りなければなりません。毎年赤字がありますと毎年借入が発生しまして、これがだんだん積みもり積もってまいります。その結果現在国の借金が極端に大きくなっております。総額528兆円という気の遠くなるような話なのです。これが大きい小さいかを何と比較するかということがございます。借金が大きいとやっていけなくなります。もし企業であれば倒産であります。最近も倒産に瀕したあるス



ーパーの問題が取り上げられました。借金が大きすぎる、もっと減らせ、という意見が出ております。どれくらい借金があるかと申しますと、年間売上に近いぐらいの借金があります。これはなかなか大変なことだということでもあります。年間の収入分の借金、これはほぼ限界に近いのでありましょう。昨年ある建設会社が倒産しました。借金が多すぎるからもう生きていけないだろうと言われて倒産させられたと申しますか、そういう細かい事情はとにかくといたしまして、倒産になったこの会社、借金がどれくらい有るか申しますと、年間の売上のほぼ2倍近かったのであります。これじゃとてもやっていけないと皆さん方はおっしゃったのであります。国の場合、年間の売上に相当する年間収入がどれくらい有るかと申しますと、大雑把に申しまして34兆円です。借金の金額は先程申し上げました528兆円。15倍以上の借金です。こんな企業はありません。もうとっくに破産しております。倒産しております。社員は全員首です。ということは今、国家公務員は一人も雇えない状態なのであります。

この事態になっているのにも関わらず我々はこれを自分のことではないと考えがちでありますけれども、この咎めは全国民が等しく背負わざるを得ない将来の問題であります。ということを考えますと現地点において公務員の給料すら払えない事態、その中でどれだけの支出が可能であるかとちょっと考えていただきたいと思います。全く無理です。我々がやらなければならないのは何かと申しますと、まずこの赤字の圧縮しなければならない。そして借金を返して行かなければいけない。そのためにはどれくらい支出を圧縮しなければならないか。これを考えただけでも気の遠くなる事であります。そして単に支出の圧縮をどれくらいやっても追いつかないのであります。ということは収入を大幅に引き上げざるを得ません。どこまで引き上げるのかという問題がございますがとにかく国の収入の基本は税金なのであります。ということは今後相当大規模な増税は避けられない、こういうことでもあります。それらを先送りしているから我々にその痛みが伝わってこないのでありますけれども、もはや先送りも限界にきております。先送りすればするほど借金の金額は増えるのでありまして、一刻の余裕もない状況なのであります。大幅な増税をしておきながら支出の圧縮を遠慮することはできるでありましょうか、徹底した支出の圧縮は今後必要なのであります。これを前提において考えていただきたいのであります。即ち我々は国がいろんな事をやってくれました。従来です。そこで今後もやって頂けると期待をしているだろうと思うのでありますけれども、もはやそのような事態ではございません。国は何一つ出来ないのであります。今までやっていたことも

止めざるを得ません。

その中であって冒頭申し上げました我々の要望は随分大きな物があります。安全性から含みましてあれもこれも実に多様な大きな課題を実行していただきたいと思っております。それは個人個人としてはあるいは一地方自治体としてはできることは乏しいのでありまして、国の力でやらなければならないことは沢山ございます。そしてどんな犠牲を払ってもやらざるを得ないこともあるはずであります。とすれば自ずからやることを絞らなければなりません。何に絞るか、これが重要であります。従来とも優先順位を付けて実行されてきたということでもありますけれども、従来の優先順位程度の話では駄目なのであります。程度が違います。徹底的に絞らなければなりません。と致しますと本当の意味での重要性、本当の意味での将来性、これがなければ地域の将来がなくなるというものに重点を置かざるを得ません。そこで我々がどういったことに重点を置くべきか、それを考えていただきたいと思います。

この中部地域の特性についてはいろいろな考え方があるであらうでしょう。日本列島の全体を思い浮かべていただきますと、まさに中部であります。真ん中であります。このことを我々この土地に生まれ育っております人間としては当たり前の事として、特別に考えるひとはございません。我々にとってこの地は住みやすい良い土地であるという考えしかないかもしれません。しかしこの中部を外の目で見ますと大変うらやましい地域であります。日本列島の真ん中であります。日本全体を真ん中が本当の意味でどこにあるかと申しますと、日本の人口の分布がございまして、日本の人口の重心と申しますとこの地域であります。岐阜県の郡上郡であります。日本中の人がいっぺんに集まろうとするならばここに集まるのが一番便利なのであります。ということから分かりますように、この中部は正に真ん中であります。そしてまた随分恵まれた地域であります。気候温暖である、それから自然に恵まれています。水が豊富である。その水は時に災害をもたらします。しかし、これをきちんとコントロールすれば我々の生活にいかに役立つかという事を我々は良く知っているわけでありまして古来から治水事業が盛んに行われました。その成果で産業が発展し農業先進国であります。ご承知だと思いますがこの愛知県は有数の農業地域なのでもあります。昔から色々な産業が発展しておりました。そして軽工業から重工業へと比重も移し機械工業が盛んになり今日に来ておるのであります。それだけの便利さがあります。中央である。東と西の結节点になっております。我々は自分で意図せずに自然に道が出来ました。東海道であり中山道であります。それを我々が利



用するだけではない、東の方、西の方が自由に利用して大いに便利に使っていただいていたのであります。鉄道が引かれます。東海道線が通ります。我々が意図して引いたのじゃないはずです。新幹線が出来ました。自然に出来ました。その前に高速道路が通ります。日本初の名神高速・東名高速が通ります。そして皆様が利用なさっていらっしゃるのであります。水は大きな水瓶があるという意味であります。中部山岳地帯であります。山岳リゾート地域が控えております。山があって海がある。日本有数のリアス式海岸、志摩半島があります。まだまだ我々には未開拓の地域がたくさん残っているのであります。そして将来的に申し上げますならば、この地はもっともっと利用して良いのであらうと私は考えております。その利用するのは誰かと申しますと、この地の人ばかりではありません。昔からそうなのなんですけれどもこの地域を利用して東の方も西の方も交流をしておりました。そしてこの地で出来たものが世界中の人に尊ばれ喜ばれているのは現在なのであります。この意味でこの地域ではもっともっと利用されしかるべきだと私は考えております。利用の方法は色々ございましょう。今我々が考えるだけではありません。将来に渡って将来の国民にも利用していただける、そのためにはそれだけの基盤整備が必要だと私は思っております。その基盤整備は我々のためだけではありません。将来の人のためであります。我々のためだけではありません。この地の人のためだけではなく日本中の方のためであります。世界中の方のためであります。

この視点で考えますと、やるべき事はうんと幅が広がります。もし我々一人一人のためにということであれば我が家の前の舗装、これが一番重要であります。しかし、私は視点を変えていただきたいといいます。中部ということを考えまして中部をいかに利用するかということになります。我々が利用するためばかりではないということなのであります。もし、私どもが私どものためにやると致しますれば、それは結構でございます。結構でありますけれども、それは自分の金でやるべきでありまして、国家の金を使うとかそんなことはとても許されることではありません。もちろん国家財政が潤沢である従来のような事であったら違うかもしれませんが。しかし先程申し上げたようにこのような事態になっている以上、よほどの緊急性や重要性がないことにはもはや国の資金を使うのは到底できることではありません。そのことを考えますと、私どもが優先順位をつける場合には何をやるべきか今までと違った観点で考える必要があると私は思っております。

考えてみますと我々は今この世の中に住んでおりますけれども先人のおかげをもらっていると話をいたしました。例えば名古屋のことを考えてみましても他の場所から来た人々が羨ましいとお

っしゃいます。道が広い。我々はそれほど良いことばかりでもない。高速道路の発展が遅れているではないかというのを言いたいのでありますけれども、一般の道路が広い、良く整備されているということは間違いございません。ところがこの広い道がいつ出来たのかと考えてみますと名古屋の都市ができたときからあったわけではございません。戦後あの焼け野原の中で道を拡大したわけがあります。どのようにして拡大したのかと申しますともちろん持っている土地を提供していただいて道を広くしたのであります。その時道を提供していただいた方がいるはずであります。その人達のお陰で今日我々が広い道を使わせていただいているという観点、これが果たしてあるのでしょうか。現実問題としてももし当時の人々がその土地を提供していただければ道は広くなっておりません。もちろん当時の人も保証を受けたであります。しかし考えてみて下さい。先祖伝来のずっと住まった土地を手放す、これはいつの時代でも大変なことなのであります。

市当局も考えたであります。立ち退かす場所が必要であります。どこに立ち退いていただくか、その土地が無かったのであります。無いとどこからひねり出さなければなりません、考えました。町の真ん中になくて良い物がある。これに引っ越していただこう、そしてその跡を利用する。こういう考えがあったはずであります。一つは墓地であります。お寺には墓地がある。そしてそこで朝晩お花を上げお参りをする。これは市民の日常生活でありました。その墓地を集約しまして東の端へ持っていったのであります。誰も東の端まで行くのは大変です。こうやって出来たのは平和公園であります。今地下鉄で降りてちょっと行けば平和公園です。ところが戦争の終わった時、市電は東山までしか行っておりません。しかもそれは本数が極めてわずかであります。もう東山近辺になりますと人家はありません。それから先は小さな道はありましたがとても行けるような所ではありません。そしてそんなところに墓地を移したらもう二度と墓参りに行けないのではないかと思います。そういうところへお墓を移すことにもし皆さんが同意されなかったら空き地は出ません。そして道路の拡張は出来なかったはずであります。大勢の人々の犠牲のおかげで実は今日がある。そして大勢の方々の犠牲について感謝する気持ちがないといたしますと、誰が犠牲になろうとするのでありましょうか。

私どもは過去を振り返って大勢の方々の犠牲のもとに今日がある事を知る必要がありますし、我々は将来のためにそれだけの犠牲を払う必要があると思います。でなければ将来の国民にとって必ずしも住みやすい国土になるとは限らないからであります。我々は我々の知恵を絞って色々な要



望を出す必要があると思っています。そして政策が本当に正しい方向で行われるようにしなければなりません。その場合には我々の意見の出し方が問題であります。もし、自分にとっての望ましいことを皆が要求するといたしますと、おそらくかなりの矛盾が出てくるであります。ある人が右と言いい、別の方が左と言う。そして自分の意見が通らなければ皆さんが困るだけであります。このような結果といたしまして、意見を言っても受け入れてもらえない。ということが出てまいりまして、物事が上手く進むはずがありません。もちろんそれぞれの立場で意見を言うことは必要であります。それは気が付かなかった意見として大いに参考にさせていただかなければなりません。しかしその場合にはその意見がどういう立場で言われているかということも重要であります。自分の利益のことを考えて主張する、これほど醜いことはございません。我々はそんなことが世の中で通るはずがないということを十分知っているはずであります。だからといって身に衣をまとえばいいというわけではありません。あくまで自分のためではなくて国全体としていかに重要であるかという視点でなければなりません。

しかも、国土の建設、交通といったことを考えるといたしますと、今の立場だけで決めるわけには参りません。むしろ問題は将来です。将来の日本にとって何が重要かという事であります。このような見方をしますと、世界がどうなっているかそしてどう動くか、これを視野に入れた上での意見でなければならないわけであります。現在世界の情勢をみますと、各地で世界的な規模での大きな開発が行われております。例えば空港といえは国際空港であります。その国際空港がどれくらいの規模であるかということはシンガポールを見ても北京の動きを見ても韓国の動きを見ても明らかであります。果たしてわが国で同じ様な規模、あるいはそれを上回る様な規模の計画がなされているでございましょうか。将来の日本にとってはゆゆしき事態だと思っています。港、これを取り上げましても同じ事が言えます。わが国は海洋国家だと思っておりました。そして日本の港は世界一だと思っておりました。ところがもう既に相当な遅れがございます。シンガポールだけではありません。韓国におきましても、相当の規模での計画が進んでおります。それに太刀打ちできないと世界の流れには取り残されてしまうわけであります。そのとき日本の産業がどうなっているかということを考えてみますと、恵まれた社会資本の中にあつて効率的な企業運営ができた日本、それがいつまで続くだろうかという不安がございます。後になってやればいいというものじゃないのであります。それはどういう意味かと申しますと、世界的な規模でわが国には無ければならないことがあ

るという意味なのであります。それをどこに求めるか、国全体のことを考えて下さい。この中部にあることがいかに便利になるかという事も考えていただきたいと思います。そういたしますとそれらをどんどん推進しなければならないということは明らかであります。

その時我々がどういう観点でこれに応じるかということがございます。建設の過程では埃が出ます。公害が発生します。誰もが嫌です。しかしそれらが嫌だと言うことになれば工事は進捗いたしません。誰かが被らなければなりません。その時誰が犠牲を払うかという問題であります。我々でなければなりません。我々が犠牲を払うことによって国土がより充実し、それを世界の人々が利用できるということが必要であります。我々は埃をかぶっただけで終わる可能性があります。それは建設まで長い年月がかかるからであります。その結果はおそらく我々の子供や孫、将来の国民が享受するでありましょう。我々ではありません。従って我々は骨折り損で埃をかぶるだけであります。

しかしそれが必要だと私は思います。それは中部のこの恵まれた所に住んでいる我々の役割でもあると思います。観点はあくまでの将来におき、全世界におき、全日本のために、従っていかに乏しい資金といえども、そこには重点的に配置してもらいたい。こういう物があるはずであります。我々は思いっきり重点を絞らなければなりません。そして、全ては自分の意見通りには決定できません。それぞれの立場からの意見は述べるべきです。しかし最終的には誰かが決断しなければなりません。決めなければなりません。決めた事以外は出来ません。あるいは決めた事に対してもマイナスはありましょう。そのマイナスを覚悟しなければなりません。決定には従わざるをえません。決定された事にいつまでの不満を述べてはいけないのであります。それだけの時間的な余裕もないのが現状です。我々は大変恵まれた環境にあります。この恵まれたままですっといくとお思いかもしれません。私はそうは思っておりません。発展途上国のアジア諸国の追及は極めて急であります。そして我々は既に取り残されつつあると考えております。もう一回我々は活性化をし直さなければなりません。そのためには我々が犠牲をはらっても将来の日本のために、何をやるべきなのか、意見を述べ決定に従う。そしてその決定を本当に実りあるものに推進していく。これが必要でないかと思っております。皆様方のご意見を出していただき、それを行政が充分咀嚼した上で判断をして方針を明らかにして実行に移していただきたいと思います。そしてこの中部がますます世界の為に役立つように、こう願っているわけであります。ご静聴ありがとうございました。